

# 地獄の猛火、化して 清涼の風となる

〜永井博士と空外上人〜

〈江角 弘道〉

雲南市には、原爆で被爆され、それが縁となって「世界平和」を希求された永井隆博士と山本空外上人の遺徳を顕彰する永井記念館と空外記念館があります。三刀屋町出身の医師・故永井隆博士は、長崎で原爆に被爆しながらも献身的に被爆者の救護にあたり、病床にたおれてからも、平和を希求する多くの著書を書き続けられました。現在、山陰中央新報紙上で、その著書『この子を残して』が連日、掲載されています。その本の挿理の章には、原爆についての博士の思いが次のように書かれていました。

「それを見た生き残りの私たちは、原子爆弾は決して天罰ではなく、何か深いもくろみを持つ御摂理の表れに違いないと思った。…これは何かしらねど、愛の摂理の表れである、と信じて疑わなかった。…原子爆弾によって私の正しい道をはばんでいた邪魔が取り除かれ、私は真の幸福を味わうことができるようになったのであ

る」  
ここには、原爆によって「真の幸福」を味わえるようになったとあり、原爆投下を「深い神の摂理の表れ」と説かれました。

## 原爆という地獄を転化 おかげさまに驚きと救い

普通人間にとっては驚くべき言葉だと思います。加茂町隆法寺の住職をされていた広島大名義教授の故山本空外上

人は、広島で原爆に遭われました。この時のことを「私のすぐそばの学生は即死したのに私は不思議に救われました。あの広島の様状は、二十世紀の『無二的の失敗』を意味したと（人間と自然、山本空外著）と書かれています。

その後、空外記念館の開館記念講演では「原爆に遭わなければ私は僧侶にもならぬし、またしたがって、隆法寺には縁がございませんから、記念館もできません。記念館ができれば、『無二的人間形成』といううな、今後世界で一番大事な生き方という



山本空外上人



永井隆博士 (永井記念館提供)

ものは、世に形をとらぬままになるのですよ。原爆に遭ったおかげで私が『無二人間形成』ということに取り組みことになりました。これからの世界文化は、自分も最善を尽くすが、相手も生かし切つて、子ども平和なうちに、人間の値打ちのあるような生活を築き切つていくという『無二的人間生活』しかございません」と話されました。

宗教に深く皈依をされてきたお二人とも、原爆という地獄を転化されて「おかげさま」と拝んでおられるところに、大きな驚きと救いを感じます。それを仏教では「地獄の猛火、化して清涼の風となる」と言います。

臨済宗中興の祖である白隠禪師(1686〜1768年)には

「南無地獄大菩薩」と書かれた墨跡があらまら。この大震災がまさに復興するには「南無大震災大菩薩」に皈依(南無)しと拝めるようになることにあるのでしょうか。いや、この地獄を「南無大震災大菩薩」と拝みながら歩んでゆくほかないのでしょうか。空外上人の生き方は「南無阿彌陀仏」と念仏をしながら、人生で出会うすべてのものを生かしてゆく、転じてゆくという『無二的』な生き方にありました。

(空外記念館理事長、島根県立大短期大学部名誉教授)

昨年、東日本大震災という地獄が突然に來